

名古屋の箏曲家ら7人



入院患者たちと笑顔で交歓する浅井大美女さん(左)と木村直子さん=岩手県陸前高田市で(浅井さん提供)

真心添え 慰問演奏

昨年三月の東日本大震災の直後から、名古屋市を中心にはチャリティーコンサートに奔走してきた県内の音楽家ら七人が九月下旬、支援物資

を送ってきた岩手県陸前高田市の希望ヶ丘病院を初めて訪問し、入院患者、医療スタッフ約百人を前に琴やハープを奏でた。(長谷義隆)

物資送った陸前高田の病院訪れ

慰問演奏したのは、箏曲家浅井大美女さん(モバ)と名古屋市西区をリリーダーに、ハープ奏者木村直子さん(同市守山区)、太鼓奏者吉村城太郎さん(半田市)、神職兼子怜佳さん(名古屋市北区)の四人。これにスタッフ三人が同行した。希望ヶ丘病院は精神科専門。高台にあって津波は免れた。「心を病んでいる被災地の方に、私たちの音楽が受け入れてもらえるのか」。そんな心配の声がメンバーの間にあっただが、浅井さんは三十年間続ける病院慰問の経験から「音楽は必ず心に響く」と信じていた。奏でたのは「里の秋」や「赤と

入院患者やスタッフを励ます

んぼ」、ヒット曲などの八曲で、「だれもが口ずさんだ曲を選んで演奏したところ、じっと聞き入り、終盤はみんな拍手して喜んでくれた」という。浅井さんらは、被災したり貧困に苦しんでいた子どもたちに、支援物資や音楽を届けているNPO法人「世界のこどもネットワーク」(東京)のメンバーで、震災直後からは震災被災地の支援活動も展開。同病院には、陸前高田市の復興を後押ししている名古屋市を通じて関わり、病院側の要請にこたえてまさストープや非常用発電機、毛布三百枚のほか、大量の消毒液、マスクなどを送ってきた。病院の畠山政平事務長は「困っていた時に必要な物資を送ってもらって助かった。そんな恩人たちが今度は音楽で患者さん、スタッフを励ましてくれた」と喜んだ。浅井さんは「支援物資をただ送るだけでなく、真心を届けたかった。次は、私たちの活動を応援してくれた人たちにも音楽で恩返ししたい」と話した。